

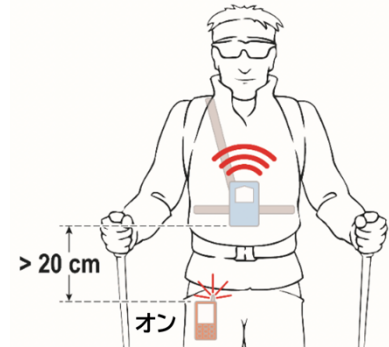
## 雪崩トランシーバーにおける電波障害

### SEND - 送信モード - 全ての機器は使用を続けて良い

> 干渉源から 20cm 以上離すこと :

- 電子機器
- 金属部品
- 金属箔 (例:保温用シート)
- 磁石
- 発熱体

携帯電話はトランシーバーと反対側のポケット(ズボン)に入れ、雪崩が発生した際にトランシーバーと携帯電話が接近し、送信信号が遮断されるのを避ける。



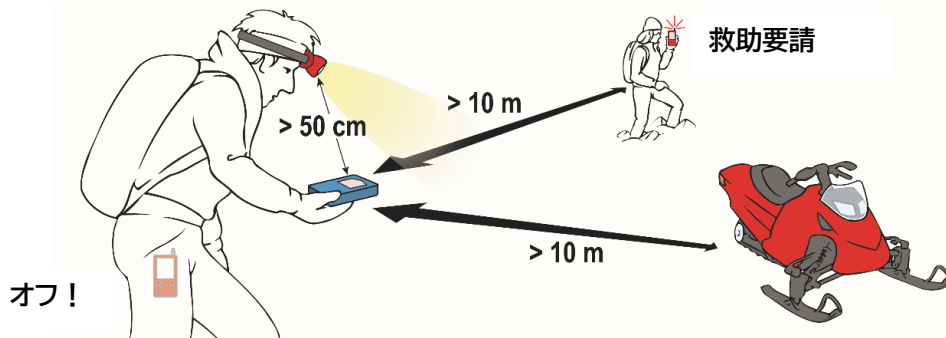
雪崩トランシーバーをクレードルに装着している間は、携帯電話を上着のポケットに入れたり(または、アクションカメラを胸の高さに付けたり)しないこと。

グループ内でこの話題について話し合い、干渉源の問題を今一度注意喚起する。

### SEARCH - 受信モード - 絶対に必要な機器のみオンにしておく

捜索中の救助者:  
全機器をオフ  
ヒーター付き手袋を外す

近くにいる人:  
10m 以上離れる  
全ての機器は使用を続けて良い



- ヒーター付き手袋を外す。
- 通信機器やその他の電子機器の電源を切る。(完全にオフ、機内モード不可)
- ヒーター付き靴下とブーツの電源を切る。
- スマートウォッチなどの電子画面付きの時計や、活動や心拍数をモニターする電子機器を手首や腕に着用する場合は、トランシーバーを反対の手に持つ。
- 捜索に絶対必要な機器から 50cm 以上離す。例:夜間の捜索で使用するヘッドランプなど。
- 電源の入っている携帯電話、ラジオ、衛星通信機器を 10m 以上離す。
- エンジンのかかったスノーモービルを 10m 以上離す。
- 上記の距離をとっても干渉を抑制できない場合は、捜索帯の幅を最大 20m に狭める。
- 一部の電動エアバッグシステムは、干渉を引き起こす可能性がある。影響を受けるシステムを使用する場合は、電動エアバッグなしでの捜索を検討する必要がある。

#### グループでの仲間の救助:

時間を節約するため、あるいは自分の機器の電源を切る操作に慣れていない場合は、積極的に捜索を行っていない人に電子機器を渡すことを検討する。

## 干渉源

SEND 送信 と SEARCH 検索 に影響を与える受動的干渉 ※:

※それ自体は電子信号を発さない物からの干渉

金属部品、金属ケース付電子機器、金属箔・金網、磁石

→ 金属部品や磁石から 20cm 以上離す

SEARCH 検索 に影響を与える能動的干渉:

電気エネルギーを消費する全ての機器:

→ 範囲の縮小や「誤検出」を避けるために、SEARCH 検索 時のルールに従う

## 干渉によって起こり得る結果

→ 誤まった距離と方向の表示 → 「誤検出」

→ 検索範囲の縮小

## 干渉の検出

「埋没者の信号」と「誤検出」を区別する

[アナログ音に基づく]

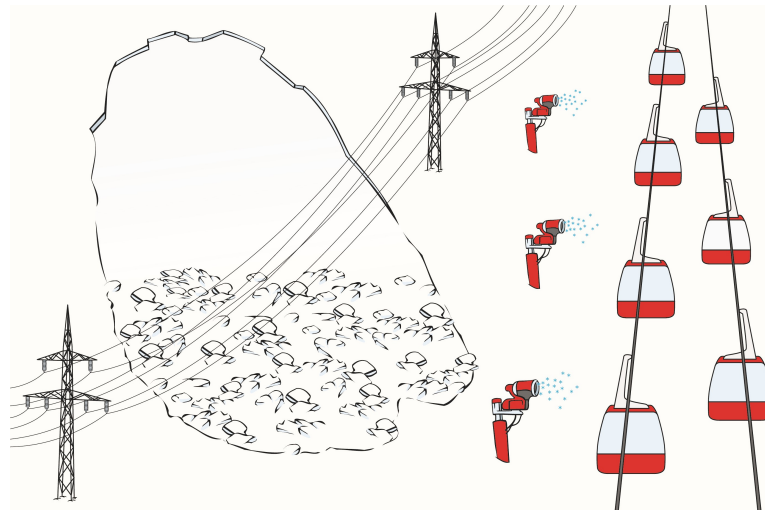
→ 約1秒毎に発生する本物のアナログ音 + 距離/方向表示

= 埋没者の信号

→ 距離/方向は表示されるが、アナログ音が全くない、あるいはほとんどない

= 「誤検出」

## 干渉が激しい場所での検索



→ トランシーバーがより狭い検索帯の幅を指示した場合、機器の指示に従う。

→ そうでない場合は、検索帯の幅を半分にする。

→ 極端な場合は、マイクロサーチストリップス法を適用し、アナログ音声に基づいて検索する。

最近の研究から得られた圧倒的で説得力のある予備データが、UIAA の雪崩トランシーバーに関するワーキンググループによって評価されました。これらの推奨事項は、複数の組織、連盟、主要な専門家、および全ての雪崩トランシーバーの製造業者によって再検討され、合意されました。電波干渉の分野におけるさらなる研究が必要とされています。自分の機器や最新の研究について、常に情報を更新して下さい。

<https://www.theuiaa.org/safety/>